

# 令和3年度 常葉大学教職大学院 第2回連携協力協議会

◆ 日 時 令和4年3月4日（金）13：30～16：30

◆ 場 所 常葉大学静岡草薙キャンパス A棟2階A201教室 他

## 次 第

進行（粉川）

1 【全体会】 13：30～13：40 A201教室

（1）あいさつ 安藤 雅之 副学長

（2）本日の日程・会場、課題研究成果報告会についての説明

— 移動 —（13：40～13：45）

2 【課題研究成果報告会】 13：45～14：40 A棟4階

— 休憩及び移動 —（14：40～14：50）

3 【グループ別協議】 14：50～15：20

- ・ 行政、協力施設 < A426 教室 >
- ・ 令和3年度ARIの連携協力校 < A404 教室 >
- ・ 令和3年度ARII・IIIの連携協力校 < A406 教室 >
- ・ 令和3・4年度現職教員原籍校 < A424 教室 >
- ・ 外国人児童教育観察実習校 < A423 教室 >

— 休憩及び移動 —（15：20～15：30）

4 【講演会】 15：30～16：30 A201教室

- ・ 演題 「これからの人材育成と働き方改革」
- ・ 講師 ヤマハ発動機株式会社 生産本部 生産戦略統括部 モノづくり人材戦略部長  
河合 多真美 氏

— 閉会（グループごと） —（16：30）

【グループ別協議内容】

委員から出された意見（抜粋）	大学院側の回答
<p>常葉大学は、学部や大学院でよい人材を養成していると感じる。</p>	
<p>教育現場では教員不足が深刻である。教職大学院には、人材バンクとしての役割も期待している。</p>	
<p>教育界では、これから大学、大学院、行政、学校のつながりや連携がますます重要になるのではないかと思う。</p>	
<p>2年間、ARで同一の学部卒院生が来てくれることが有り難い。当該院生としっかりとつながりをもつことができ、安心して受け入れられる。</p>	
<p>本校では、常葉大学教職大学院を修了している教員を実習担当として据えたため、とてもよい連携ができた。学部卒院生本人も大きな戦力となってくれた。</p>	
<p>配属された学部卒院生と話をするのがとても楽しかった。参観していない授業についても指導案を持参し、いろいろと助言を求めてくれた。</p>	
<p>現職教員院生本人の課題意識が明確化していくのがよく分かった。実践と理論の融合ができたと感じる。学校の課題も明確になり、有意義な取組となった。</p>	
<p>現職教員院生にとって、学校現場と密につながって学べるところがよかったのではないかと思う。本人は、自校だけでなく他校の校内研修にも関わり、周りによい影響を与えてくれた。今後、ステップアップのチャンスを与えたいと思う。</p>	

<p>現職教員院生に対して、学校として気を付けることはあるだろうか？</p>	<p>学級ももたず、学年所属もないということになるかと思うので、本人の居場所をつくってあげることにご配慮いただきたい。</p>
<p>月曜日の勤務やA R期間中、現職教員院生はどのように過ごすのだろうか？</p>	<p>本人の意思を尊重していただきたい。研究テーマに基づいた計画が示されるかと思うので、本人と相談しながら決めていただければと思う。</p>